

無農薬栽培を目指して 原種に近い りんごを育てる

町田 登さん(64歳) 幸子さん(63歳)
長野県北安曇郡

山林原野を開拓して三十余年、安曇野の自然から育まれたりんごが収穫のときを迎えた。

取材・文／飯塚良子 撮影／神原孝行



約40種類のりんごを栽培中。写真は「さんさ」。100%天然りんごジュースは娘の「志乃果」と命名した。りんごジュースは宅配で販売。＊お問い合わせ／申し込みはfax:0261-62-6294 tel:0261-62-9077 E-mail:ringotei@cameo.plala.or.jp



1／収穫が至福のとき。今までの苦労が消えて笑みがこぼれる。
2／黄緑色のグラニースミスはジュースでサクサクとした食感。サラダやアップルパイに最適。3／熊や狼からりんごの木を守るのは12匹の犬。敵がくると、猛烈にほえて撃退してしまう。



種類が実になった。収穫期は早まりそうだが期待が持てるが、世の中に流通できる味かどうかはまだ不明。しかし、希望の光が灯ったことだけは確かだ。

苦菜を共にしている幸子さんはお母さんの介護が加わりさらに忙しいが、いつも笑顔でいる。彼女を見ると、心のなかで手を合わせている登さんなのだ。

最近隣に長男が引っ越してきて、将来はりんご園を継いでくれるという。また、長女はトルコの男性と結婚しているの、いつか新生りんごを携えて原産地のトルコを家族で訪れたいという新たな目標ができた。



**りんごの優等生
グラニースミスの
新種を誕生させたい**

りんごはとびきり美味しい。葉にカビがで、葉が落ちやすいから農薬を使わないと育たないというのが常識だ。1974年、有吉和子さんの小説『複合汚染』の、化学肥料と除草剤などが土壌を汚染し、さらに人体も蝕むという内容に驚愕した。以前から問題意識を持っていた町田登さんは、そのとき、身近な農業を見直そうと決意する。長野県北部・山ノ内町のりんご農家の要職にあった父親は、

無農薬のりんご栽培に賛成してくれるはずもなく、結局、32歳の登さんは家を出た。新天地は長野県中部の安曇野に決めた。数年は夜がむしやうらに働き、松川村に6000坪の土地を得た。枕木で家を建て、水を引き、ランブ生活しながら、りんごの苗木を3000本植えた。だが、すぐに先住者のウサギや猿に食い荒らされた。りんごは葉が落ちてしまうと実がならない。登さんは必死でりんごの生育を研究し、原種に近いほど病気に強いことに着目した。そもそも、りんごの原産地はトルコ付近でイギリス、ア

メリカを経て日本にきた。オーストラリアで発見されたグラニースミスは、原種の強さがあり、ビートルズのアップル・レコードのシンボルマークになっているのも気に入った。『日本は高温多湿だが、グラニースミスは葉の付きがよいので、農薬を2割に抑えられる。課題はりんごの旬を過ぎた11月の収穫期と、甘さを求める日本人にさっぱりした酸味が受け入れられなければならない。』

りんごは種をまき、実がなるまでに約8年かかる。そこでグラニースミスを接ぎ木して新種作りに挑戦している。今年は何

林 檣 停 通 信

NO.147 2014.12.7

しほりばたより

No.4022 14-182 12/26

長野県北安曇郡 町田 登・幸子

“日本中が、背中中で泣いています”と横尾忠則さんが高倉健の死を悼む記事を新聞にのせた。僕だった頃の私は健さんの映画はほとんど観なかった。古くからの友人の安さんや、死んでしまった下さんは酒を飲むと必ず健さんの歌をうたっていた。義理と人情をはかりにかけれやとか綱走番外地とかを。軟弱な社会派の僕の胸の内はこうだった。義理と人情をはかりにかけるなんて道理にあわないよ。日本国内の番外地は江戸城ぐらいなものでしょうと。ちなみに僕の歌は山谷ブルースやお父う帰れやだった。このお父う帰れやの“風に追われて”の風が金になりずうっとそれに追われている。それからアイヌ民族戦線を少しかじったから、私の開発したというより自然に出来たものといっているかもしれないが、その名を“れら”としたアイヌ語の風である。(岡林殿ごめんさい)

ヤクザ路線からの転向後の作品はけっこう観た。最後の作品となった“あなたへ”も観た。キタハッタの世界より心おちつく自然の流れに深い感動があった。年齢が増すごとに人は求めるものが深くなるのであろうか。

二年ほど前になるが不摂生がたたって胃潰瘍になってしまった。そのときの冬の一ヶ月はほとんど床の中だった。昼間ゴロゴロしていたから夜は当然眠りにつけない。いわゆる昼夜逆転現象だ。そのときからリスナーは老人ばかりというラジオ深夜便を聞くようになった。睡眠導入剤のウイスキーを少々、画家の若栗さんからの遺品の南方熊楠の全集と広瀬隆の「文明開化は長崎から」という睡眠導入書をかたわらに置いて7時過ぎにはゴロンとなる日々ですが、夜中の2時や3時には目がさめる。そのとき“愛しきあなたへ”という歌が聞こえてきた。それは大貫妙子さんの声だった。うーん、確か彼女は独身だったと思うし、その対称は誰かなとうろつげに考えたが、二度三度聞いているうちに、きっと去年亡くなった両親への思いではないかと察した。静かなやさしい歌詞は子守歌のような気がします。いつか彼女にそんな思いを聞きたいものです。

信州大学の諸君が今年もりんごの収穫にやってきてくれた。24人もの多数だったので今年最後の大切な仕事も一日で終わった。コンパのときの話しであるが、前記にあげた、いわゆる有名人をほとんどの人が知らなかった。ギターを持ち込んできた4人もそうであった。きっとビートルズは知っているがリパプールは知らないだろうという歴史観かもしれない。いやあー20才前後の若者はそうなのですかと少しがっかりした老人であった。

春の摘果作業として秋の収穫と4年かかわってくれた彼と彼女たちの真面目さに、おい君は教師になるんだって。そんなこんな荒波の中で学校の先生は大変だよと心配になったが、いつでもここに遊びに来てくれよという言葉が別れとなった。

“奇跡のりんご”に触発されて、りんご栽培を始めた人が二人我が家にみえた。ススに汚れたいくつかのりんごを持参してだ。私は40年前の経験を思い出して涙が出そうになったがこらえた。どうしたらいいのでしょうかと問われても答えるすべもないのです。それでもわかる範囲で技術的なことはいいにひとつひとつ答えた。あなたねえ、自然農を

めざすならいちばん肝心の台木の選択からすでにまちがっていますよ。それは3年もすれば実を付けますが、その寿命も20年も持たないですよ。大地に根を張らない支えが必要な一人立ちのできない台木を使用しても無理ですよ。それから品種も意識的に病気に強いものを選択しましょう。そのことがりんごの歴史を知る上で大切なことだと思いますよ。先人の思いは日本の自然環境にまけずと農薬で克服してきたが、今ではもっと未来を探す段階になってきているのですね。つまり大変なことにかかわることは長い時間を要することなのです。

話しの終りに、あなたは消費者の皆様に、今のこのりんごをいくらか提供しているのですかと問うたら1kg2000円ですと。私は耳が遠くなったものだからカミさんに後でたしかめたらそうであった。あの本には確か普通栽培の8割はいけると書いてあるのだが、まさに破格のお値だんですねと言わざるを得ない。一過性の技術に溺れることはたった一度の自分の人生を見失うことですよと、そのあなたに言ってしまった。

本年度使用した農薬(商品名)は次の通りです。
スコア・トレノックス・ジマンダイセン・ダズバン・ボルドー・ダニゲッター・フリントフロアブル・ダイパワー。

私はこれまでずうっと経済的には短い底辺を歩いて来た。高さが無いから面積は広がらない。どこでどうまちがったか今さら言うこともないが、ここまで来るまでにはほんとうにいろいろな人にお世話になったり心配をかけてきた。りんごの価格についても、安いと言う人も高いと言う人もおります。基本的に私はりんご栽培も社会運動としてとらえておりますので連動している全ての事象にむかいあわないと意味が浅いものになります。

都会の庶民と信州山おくの田舎のそこが違うところかもと小さなことをあげれば、ウナギとかクロマグロは何年前に食べたのかと思ひ出せないかどうかの差があるのです。まさかりんごがそうなるはずもないと思っていますが、私共のりんごの価格についても、世間の同一線以上の革命をめざしたいのです。

貧相な私の背中を見ながら育ってきた二人の子供がほんとうにたくましくなっています。犬にたとえればとばかなことを言いますが放し飼いに近いものでした。これからは君たちの時代だとまたあまいさを残す。そしてすぐそばにいるあなたへはもう少し言葉をにこさざるを得ない。自分の生命にまだ未練があるからです。



さて、今年最後の通信になりましたが、あなた様方に、私共とりんごにお付き合いいただきましてほんとうにありがとうございました。身内の二人の老死もありました。地震も続いています。雪も降りました。人も自然も生きていれば受け入れざるがたくさんあります。ただおだやかに。来年もよろしく願いいたします。ありがとうございました。

尚りんごまだあります。それからジュースもたくさんできましたのでお求め下さい。